

【取組内容③】「電子データやアプリケーションを活用した家庭学習の電子化の実践」

◆概要◆

本校は、平成31年度から市教育委員会指定のICT研究を2か年、令和3年度からは京都府教育委員会指定のCBT研究指定校を受けたこともあり、GIGAスクール構想以前から校区小中学校でタブレットの運用を開始していました。令和2年の緊急事態宣言の発出、そして1人1台タブレットが供与された際には、即時に校内環境を整え、マニュアルの策定、運用ルールの指導を終え運用を開始しました。

◆実践事例①◆

その際、いち早く操作スキルを向上させ、授業への本格導入を実現するために、『全校タブレット検定』を実施し、楽しみながら、教えあいながら操作や活用に慣れるプロセスを踏むことで、円滑かつ早期の本格導入が実現しました。

オンラインやデータのやり取りが可能なアプリと授業支援ソフトを併用してことにより、全校の生徒が、学校以外の場所でも自力で学習に取り組める、あるいは、いつでも学校と繋がる環境が整いました。



誰でも一人で解決できるマニュアルを配付



タブレットは市から貸与。使用のルールについて丁寧に説明・指導



宿題提出もタブレットから



日本で初めて本市全中学校に導入された英語力向上アプリ



アフターコロナでもオンライン配信は有効

◆実践事例②◆

コロナ禍、アフターコロナをとおして、家庭学習の電子化は飛躍的に進み、全校生徒が様々な教科や活動で活用しています。

- 課題をタブレットへ配信。提出もタブレットで。問題集や紙媒体などの課題と組み合わせ、家庭学習の質を向上しています。また、教務部が各教科の課題を把握し、バランスを取りながら運用しています。
- 京丹後市が独自に導入したAIを搭載した英語力向上アプリは、市内全中学校の全生徒のタブレットに搭載されています。中でも今年度から、中学2・3年生対象に「生成AI」を活用したモデルにバージョンアップされ、タブレットさえあればどこでも、AIがネイティブの先生のように発音の癖を特定し矯正する「個別指導」が可能になるだけでなく、自分のレベルに合わせて無限に生成AIとの英会話のレッスンを続けることができるようになりました。授業での活用はもちろんのこと、その活動を生かして、自宅で一人でも取り組める効果的な家庭学習のツールとなっています。
- その他、授業のオンライン放映やドリルソフトなど、「学びの場を保障」する様々な家庭学習ツールを駆使して、きめの細かい指導を展開しています。



協働的な活動はICT上でも活発に

◆生徒の変容と成果◆

未だ終息しないコロナ、インフルエンザ等の欠席者への学びの保障、また、本校の課題でもある長期欠席者への学習支援には欠かせないツールとなっています。